

経済システムと未来

黒田 毅

資本主義は、富の崇拜を他方において有する。これは貨幣経済と資本主義における富の所有の許容は、生活における通貨要求と労働と共に、自由経済という拡大した矛盾を有する。これらは、通貨変動と共に、グローバル化した経済システムが、経済主義における国家経済政策と共に現実を与えるものである。経済の発展は、必ず生活を豊かにするため、経済第一主義という現実の世界において共通化した基準であり、これらは先端性への憧憬を創造する。これらは、経済は現実を支配する構造であり、既存システムは、これらにおける2分化した現実を有する。

これら既存システムへの疑問は、社会的弱者への救済が同等の生活環境の供与において、新しい経済システムの模索を提案できるものである。経済の目的は2つに分割される。生活需要への供給と富の追求である。

これら企業倫理的判断とともに、他方には、富への崇拜が存在するである。競争は進歩を生む。自由経済システムは、全てを貨幣に変換する。

これらは自由経済システムへの進歩に対する多面的な判断であり、これら両面性は真実として現実を有するのである。

富の蓄積は、資本主義における所有を許容と共に、現実の支配を与える。この所有は、労働への対価であり、資産価値とその所有を与える。これらは自由経済システムにおける原動力であり、経済という現実を形成する。

現実において富の占有は、その自由経済システムにおける勝者において存在するのである。

これらは自由主義という正義が人道的価値と共に世界の趨勢と正義を有する現実と共に、世界は今日を有するのである。

これらは貨幣と経済システム、インフラのデジタル化という現実に対面し、新しい段階における経済システムの創造を今日有するのである。これらは革命的变化を与え、ピーター・ドラッカー氏のネクストソサエティの創造を自由経済システムは正義として掲げる。

労働生産性の向上は、19世紀の産業革命に匹敵する変化を今日有する。これらはITシステムにおける新しい企業環境への転換を有するのである。

グローバル市場における勝者は、資本力と開発力において新たな未来の創造を有するのである。

これらは経済が戦いであるという他方における真実を表す。戦いは必ず勝者を生むのである。

資本主義は、これら現実の基盤に所有という真実を有する。

これら新しい世界が勝利者の世界であることは正しい。貧困層は、それに参加できず、憧憬においてそれを眺めるのである。

これらの矛盾と疑問は、社会的弱者が顧みられないことであり、政治における新しい経済への理解とシステム構築は、これら弱者への同等な生活の供与を提案しなくてはならない。

これらは経済システムの転換はその必要性を有することを証明する。ベーシックインカムに基づく経済システムの構築は、新社会主義的思想を基盤とした新しい現実の創造を提案できるのである。

この自由経済システムは、競争原理と資本主義を基盤とし、決して理想ではないことは、他方における真実として理解できる。

哲学におけるこれら自由経済システムへの考察は、利益の追求という悪と人々への奉仕という善との葛藤であるが、偽善的考察を排除したとき、生存という現実と富の追求という欲望のせめぎ合いなのである。

これらは人類が自己の進歩において、理性と知性を有することにおいて、これらは経済への挑戦を掲げることは可能である。

これら経済における豊かさの創造は、生存という人類における過去の課題を克服であることは真実である。これらは政治のプレゼンスと共に、新しい経済システムの創造を提案することは可能であり、時代における飽和性はその必要性を有することを考察できると考える。

日本国における岸田首相の新資本主義という提案は、これらを考慮して良いはずである。これらが仮に正しい既存の経済システムへの説明であるならば、新しい経済システムの構築はこれらから新しい現実の創造を可能とできるからである。